

# せんだいメディアテーク年報 (2021年度)

## はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりから2年目となる2021年度のメディアテークは、昨年同様、さまざまな制約の中での展開となりました。8月から9月にかけての臨時休館のほか、貸館事業においては利用人数の制限や各種感染予防対策を引き続き実施し、また、自主事業の中止あるいは延期は免れたものの、感染拡大防止の観点を踏まえ事業の計画段階からそれぞれの実施内容を検討、変更し、実施にあたった1年となりました。

開館20周年展である「ナラティブの修復」の開催は、1年延期されたことで東日本大震災から10年目の時期と重なりました。震災以降、程度の差こそあれ当館を利用し、活動してきた表現者たちは「記録すること」を重視してきました。それは、過去を知る手がかりが復興の営みによって否応なく失われるという経験によっており、こうした記録や保存への倫理観が、個々の表現者によるメディアの使い方や制作プロセスの開発につながってきたように思われます。同時に、それは自己主張からではなく他者の声を「聞くこと」から始まる表現であったとも言えるでしょう。

メディアテークを設計した伊東豊雄氏を中心とする建築家たちは、東日本大震災や熊本地震の被災地において、これまで100棟を超える「みんなの家」をつくってきました。その意義を振り返り、今後の可能性を探るシンポジウム「みんなの家って何だろう」が、当館を本会場に、仙台市宮城野区岡田の新浜地区や相馬市、そして熊本県内の各地をオンラインでつなぎ、開催されました。

また、6年目を迎える「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」のひとつ、川俣正氏と進める「仙台インプログレス」では、貞山運河を東西に挟む2つの木道に続き「新浜タワー」を制作しました。晴れた日には防潮堤の先に海が見えるタワーでは、周囲の津波被災を免れた松林や湿地、そこに訪れる野鳥や海からの風を感じながら、この10年を振り返ることができます。

一方、縮小しての開催を余儀なくされた状況から一転、「せんだいデザインリーグ2022 卒業設計日本一決定戦」においては、二大会ぶりに出展者の卒業設計の模型をメディアテークに展示し、公開審査も行うことが出来ました。

震災アーカイブ事業の「3がつ11にちをわすれないためにセンター」では、震災をふりかえる活動だけでなく、10年を区切りに新たに始まる活動などもあり、記録映像DVDも通算100本を超えました。これまで蓄積した多くの資料を有識者とともに読み解き、今後の利活用を考えるプロジェクト「ダイブわすれん！」も始まりました。

館長発信事業では、アートミーツケア学会の共催にあわせ、鷺田清一館長が選定した映画「えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋」（伊勢真一監督）のバリアフリー上映が行われたほか、バリアフリー事業では、2006年から継続開催している「手ではなすおはなしの会」での手話の読み手を公募し、養成講座を行いました。

長引くコロナ禍による多くの困難がさらに広がりつつある現在、引き続き、利用者みなさんとともに知恵を出し合い、少しでもより良い状況づくりに取り組んでまいりたいと思います。

## 目次

### 1. 施設の概要

- 1-1. 施設
- 1-2. 沿革
- 1-3. 組織
- 1-4. 収支
- 1-5. 施設使用実績

### 2. 企画事業

- 2-1. 「ナラティブの修復」事業
- 2-2. 発信・活用推進事業
- 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
- 2-4. その他事業（芸術文化振興事業ほか）

### 3. 受託事業

- 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

### 4. 情報サービス事業

- 4-1. 映像音響ライブラリー
- 4-2. 教材ライブラリー
- 4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）
- 4-4. 地域映像ライブラリー
- 4-5. デジタルアーカイブ事業
- 4-6. 活動支援事業

### 5. 配布・刊行物等

- 5-1. 書籍や報告書等の印刷物
- 5-2. DVDメディア等の映像音響資料
- 5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等
- 5-4. その他常備している印刷物

### 6. その他（新型コロナウイルス感染症の影響等）

- 6-1. 臨時休館
- 6-2. 中止または次年度に延期となった事業等

## 1. 施設の概要

1. 施設の概要 > 1-1. 施設、1-2. 沿革

### 1-1. 施設

- 所在地 仙台市青葉区春日町2番1号  
 開館時間 9:00－22:00（階により異なる）  
 敷地面積 3,949㎡  
 構造 鉄筋造一部鉄筋コンクリート造地下2階地上7階建  
 延床面積 21,682㎡  
 主な施設内容  
 地下2階 書庫、収蔵庫、機械室  
 地下1階 駐車場、書庫  
 1階プラザ（定禅寺通に開かれた屋内型公開空地、オープンスクエア、カフェ、ショップ）  
 2階ライブラリー（映像音響資料、児童書、雑誌等の閲覧）  
 3・4階ライブラリー（仙台市民図書館）  
 5階ギャラリー 3300（固定壁面を中心とする天井高3,300mmの展示空間）  
 6階ギャラリー 4200（可動壁面で自由に構成できる天井高4,200mmの展示空間）  
 7階スタジオ（施設貸出・相談窓口、スタジオシアター、各種スタジオ）

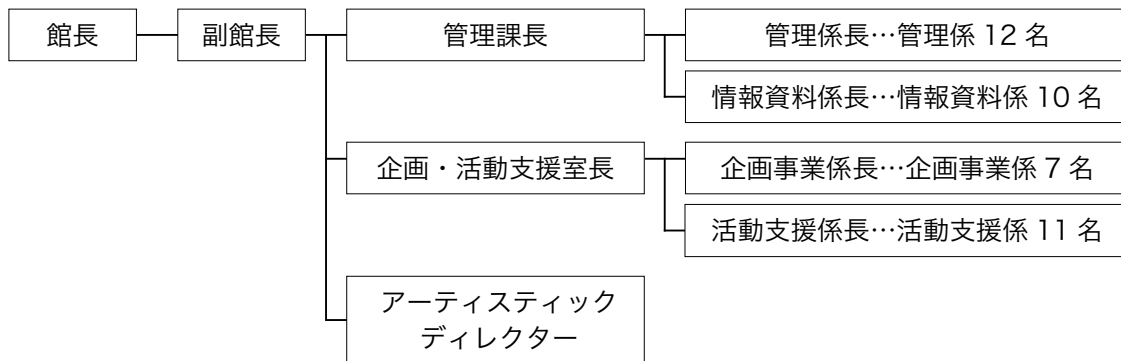
### 1-2. 沿革

- 平成 元年（1989年） 宮城県芸術協会が大型ギャラリーを中心とした美術館建設の要望書提出。  
 平成 4年（1992年） 定禅寺通に図書館を併設した市民ギャラリーを建設する方針が定まる。  
 平成 6年（1994年） 市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための  
 情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設とすることが決まる。  
 平成 7年（1995年） 設計競技により、伊東豊雄建築設計事務所が選ばれる。  
 平成 9年（1997年） 12月着工。  
 平成12年（2000年） 8月竣工。  
 平成13年（2001年） 1月26日開館。仙台ひと・まち交流財団が管理（図書館は仙台市直営）。  
 グッドデザイン大賞受賞。  
 平成16年（2004年） 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定。  
 平成19年（2007年） 業務移管により、仙台市市民文化事業団を指定管理者に指定。  
 平成20年（2008年） 館内フロアレイアウトを一部変更。  
 平成23年（2011年） 地域創造大賞受賞。東日本大震災により休館。  
 5月3日から一部再開し、翌年1月27日に全館再開。  
 平成25年（2013年） 館長に鷲田清一（哲学者）が就任。

### 1-3. 組織

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

指定管理者 公益財団法人仙台市市民文化事業団（図書館は仙台市直営）



（45名 令和3年〔2021年〕10月時点）

### 1-4. 収支

#### (1) 収入の部

指定管理料	592,329千円
事業収入（企画事業、受託事業を含む）	65,210千円
《内訳》	
・補助金	34,304千円
・各種助成金	12,440千円
・入場料等	1,153千円
・受託事業収入	15,187千円
・仙台市市民文化事業団自主財源	2,126千円
・負担金収入	0千円

#### (2) 支出の部

管理運営費（施設の維持管理、情報サービス事業を含む）	592,329千円
事業費（企画事業、受託事業を含む）	65,210千円

### 1-5. 施設使用実績

#### (1) 施設使用実績

施設	貸出単位	利用日(週)数 ／開館日(週)数	日(週)数ベース 利用率	利用者数
5階ギャラリー	週	35 / 39	89.7%	42,658
6階ギャラリー	週	36 / 40	90.0%	38,322
オープンスクエア	日	142 / 235	60.4%	24,202
スタジオシアター	1日3区分	99 / 278	35.6%	5,100
2階会議室	1日3区分	212 / 285	74.4%	1,747
7階会議室	1日3区分	281 / 309	90.9%	4,425
プラザ控室a	1日3区分	110 / 289	38.1%	280
プラザ控室b	1日3区分	121 / 289	41.9%	547
託児室	1日3区分	5 / 289	1.7%	5 (利用件数)

使用料等徴収額 35,279千円

\*5/6階ギャラリーは週数ベース

#### (2) 視察等の対応

視察 44件 1,144人

報道（新聞・テレビ・書籍・雑誌） 60件

#### (3) その他

博物館実習の受け入れ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため受け入れなし

## 2. 企画事業

メディアを活用した生涯学習活動および文化活動にかかる、展示・上映・ワークショップ等。

### 2-1. 「ナラティブの修復」事業

記憶の継承と新たな創造の接続について多様なメディアを活用した探求をおこなう事業。アーティストと協働し今日的な社会の課題や哲学的な問いを同時代性として提示する《展覧会》と、多様な市民グループが地域文化の記録や創出をはかる「メディアスタディーズ」を実施しました。後者は、対話と思索の場づくりや活動発表機会の提供《スタジオ情報発信》、民話等の資料をデジタル情報として記録する活動《地域文化アーカイブ》などで構成されます。

#### A 《展覧会》

2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 >  
A 《展覧会》、B 《スタジオ情報発信》、C 《地域文化アーカイブ》

##### (1) ナラティブの修復

会期：2021年11月3日～2022年1月9日  
会場：6fギャラリー 4200  
入場・参加者数：4,310名  
入場料等：一般500円（大学生・専門学校生含む）、高校生以下無料（豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方は半額）  
共催等：和光大学芸術学科松枝研究室（協力）、一般財団法人地域創造、芸術文化振興基金（助成）、NHK仙台放送局、tbc東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報S-style、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2（後援）

開館20周年展として開催するナラティブ（もの語り）をテーマとした展覧会。東日本大震災からの10年間、メディアテークとともに地域で活動してきた美術や映像の表現者が、過去・現在・未来の社会を見据えてかたちにあらわした10の語りの術が集いました。

##### 【出展作家】

阿部明子、磯崎未菜、菊池聡太郎、工藤夏海、小森はるか+瀬尾夏美、是恒さくら、佐々瞬、佐藤徳政、伊達伸明、ダダカン連（細谷修平、三上満良、関本欣哉、中西レモン）



##### (2) 展示作家による作品解説（「ナラティブの修復」関連企画）

会期：2021年11月3日、11月21日、12月11日  
会場：6fギャラリー 4200  
入場・参加者数：70名  
入場料等：無料（要展覧会チケット）  
共催等：（展覧会に同じ）

出展作家が会場内で作品について解説するツアーを3回にわたり実施しました。



##### (3) 関連上映会 映画『いなばの白うさぎ』（「ナラティブの修復」関連企画）

会期：2021年11月20日  
会場：7fスタジオシアター  
入場・参加者数：20名  
入場料等：無料（要展覧会チケット）  
共催等：（展覧会に同じ）

糸井貫二（ダダカン）が出演した映画『いなばの白うさぎ』の上映と、出展作家であるダダカン連のメンバー（細谷修平と三上満良）による解説を行いました。

##### (4) まちがい劇場実演（「ナラティブの修復」関連企画）

会期：2021年11月28日、12月11日、12月24日  
会場：6fギャラリー 4200  
入場・参加者数：35名  
入場料等：無料（要展覧会チケット）  
共催等：（展覧会に同じ）

出展作家の工藤夏海が参加者と「まちがい劇場」の実演を行いました。



2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 >  
 A 《展覧会》、B 《スタジオ情報発信》、C 《地域文化アーカイブ》

### (5) 小森はるか+瀬尾夏美「11歳だったわたしは 上映とワークショップ」（「ナラティブの修復」関連企画）

会期：2022年1月8日  
 会場：7fスタジオシアター、2f会議室  
 入場・参加者数：40名  
 入場料等：無料（要展覧会チケット）  
 共催等：（展覧会に同じ）

「ナラティブの修復」展で展示している小森はるかと瀬尾夏美の作品《11歳だったわたしは》のなかから、映像作品を上映しました。上映会につづけて、11歳のころの思い出について、展覧会で使われているテキストを用いて、参加者がお互いに語り合うワークショップを行いました。

### (6) 見えない人とつくるおしゃべり鑑賞会（「ナラティブの修復」関連企画）

会期：2021年11月28日  
 会場：6fギャラリー 4200  
 入場・参加者数：13名  
 入場料等：無料（要展覧会チケット）  
 共催等：（展覧会に同じ）

目の見えない人と見える人が対話を通して一緒に鑑賞するプログラムを、NPO法人ビートスイッチの協力により行いました。見える人として東北文化学園大学で福祉等を学ぶ大学生が参加しました。



### (7) 手話による作品解説動画の公開（「ナラティブの修復」関連企画）

展覧会をより多くの方に楽しんでいただけるよう、開催概要と出展作家のことばについて、手話で語る映像を制作しました。来場者に配布した資料に動画のQRコードを掲載したほか、会場内にQRコードを設置し、作品を鑑賞しながら手話動画を視聴できるようにしました。





## B 《スタジオ情報発信》

2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 >  
A 《展覧会》、B 《スタジオ情報発信》、C 《地域文化アーカイブ》

### (1) 考えるテーブル てつがくカフェ

会期：2021年9月25日、12月11日、  
2022年3月5日（全3回）  
会場：オンライン  
入場・参加者数：34名  
入場料等：無料  
共催等：てつがくカフェ@せんだい（共催）、  
一般財団法人地域創造（助成）

2011年度から継続し、11年目を迎えた事業。例年どおりの集う形での実施が困難であったため、オンラインで開催しました。「コロナ禍での日常を考える」「『我慢』について考える」などをテーマに、参加者同士で対話を深めました。

### (2) 展示 どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ—

会期：2021年7月31日—8月9日（前期）、8月11日—10月24日（後期）  
会場：1fオープンスクエア（前期）、7fスタジオa（後期）  
入場・参加者数：7,404名  
入場料等：無料  
共催等：NPO法人20世紀アーカイブ仙台（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

2012年度から続くプロジェクト。仙台的どこかではあるけれども詳細がわからない古い写真を展示し、来場者の記憶や証言を付箋に書いて貼る対話手法で、それら写真の場所や年代を明らかにしました。今回の展示を含めて、これまでに延べ445枚の写真を展示、そのうち273枚が確定され、3,324枚の付箋がはられました。また、これまで確定した場所の現在を再記録する新企画「ここダネ！」などを行いました。



### (3) 考えるテーブル 民話ゆうわ座

会期：2022年1月16日  
会場：1fオープンスクエア  
入場・参加者数：138名  
入場料等：無料  
共催等：「民話 声の図書室」プロジェクトチーム（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

震災によって大きな被害を被りながらも、周囲の語りを綴り、記録として残してきた事例の紹介と、災害が民話の中でどの様に語られてきたのかを紹介しながら、その意味について参加者と考えました。



2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 >  
 A《展覧会》、B《スタジオ情報発信》、C《地域文化アーカイブ》

**(4) 展示 2011・3・11 大津波に襲われた沿岸集落で、かつて聞いた いいつたえ むかしばなし はなし  
 その九 亶理郡亶理町周辺の民話**

会期：2021年11月1日～2022年2月6日  
 会場：7fスタジオa  
 入場・参加者数：9,939名  
 入場料等：無料  
 共催等：「民話 声の図書室」プロジェクトチーム（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

民話の語り手をたずね、その土地に伝承された民話を聞き歩く活動を45年以上にわたり続けてきた「みやぎ民話の会」が、宮城県亶理郡亶理町で、1980年代に聞いた民話10話を紹介しました。



**(5) みやぎシネマクラドル 映像サロン「ドキュメンタリーは生きている～エンドマークのその先に～」**

会期：2021年8月7日  
 会場：7fスタジオシアター  
 入場・参加者数：28名  
 入場料等：無料  
 共催等：みやぎシネマクラドル（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

映像作品を観ながらあるテーマについて議論する「映像サロン」の一環として、多摩川に暮らすホームレスのおじいさんを追ったドキュメンタリー映画『東京干潟』の村上浩康監督に、あまり語られることのない映画完成後の作り手と被写体の関係性について話をうかがい、対話の場を設けました。



**(6) いま再び、在来作物を考える一解説編一**

会期：2022年3月26日  
 会場：7fスタジオb  
 入場・参加者数：7名  
 入場料等：無料  
 共催等：みやぎ在来作物研究会（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

SDGsという言葉が浸透し、環境保護・保全や生物多様性の重要性が広がりをもたらし、在来作物の役割をあらためて考えるオンライン講演会を開催しました。

[講師]  
 佐々木寿（元東北大学非常勤講師／地大根研究者）

## C 《地域文化アーカイブ》

2. 企画事業 > 2-1. 「ナラティブの修復」事業 >  
A 《展覧会》、B 《スタジオ情報発信》、C 《地域文化アーカイブ》

### (1) 民話 声の図書室

2012年度から引き続き、民話 声の図書室プロジェクトチームとの協働により、みやぎ民話の会が45年以上にわたり記録した、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声を資料化しました。また、あらたな記録活動を進め、資料を展示したほか、CD12枚を制作しました。



### (2) どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイー

2012年度から引き続き、NPO法人20世紀アーカイブ仙台と協働し、詳細が不明な仙台の古い写真のアーカイブに取り組みました。



## 2-2. 発信・活用推進事業

各種団体との連携を通じて地域における役割を担うとともに、  
 仙台市民図書館をふくめた当館の総合的な情報アクセス機能の活性化を図る事業。

### A 《バリアフリー・デザイン》 2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > A 《バリアフリー・デザイン》、B 《館長発信事業》、C 《地域文化連携》、D 《施設活用推進》

#### (1) バリアフリー上映『えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋』

会期：2021年12月3日  
 会場：7fスタジオシアター  
 入場・参加者数：106名（2回上映）  
 入場料等：無料  
 共催等：アートミーツケア学会（共催）、  
 一般財団法人地域創造（助成）

誰もが気軽に映画を楽しめるよう、  
 目や耳の不自由な方への音声解説・  
 日本語字幕と託児サービスをつけた  
 上映会を実施しました。「アートミー  
 ツケア学会2021年度総会・大会」  
 関連企画として、哲学者で当館館長  
 でもある鷲田清一が選んだ作品を上  
 映しました。



[上映作品]  
 『えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋』  
 （監督：伊勢真一／製作年：2019年／  
 製作：いせフィルム）



#### (2) 手ではなすおはなしの会

会期：2021年9月23日、12月12日  
 会場：7f会議室ab、7fスタジオb  
 入場・参加者数：118名  
 入場料等：無料  
 共催等：仙台市民図書館（共催）

ボランティアグループ「まほうの手」  
 による手話のおはなし会を実施しま  
 した。



2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 >  
 A《バリアフリー・デザイン》、B《館長発信事業》、C《地域文化連携》、D《施設活用推進》

### （3）手話による読み聞かせボランティア養成講座

会期：2021年7月10日、7月25日、  
 8月8日、8月22日、9月5日  
 会場：オンライン  
 入場・参加者数：35名  
 入場料等：無料  
 共催等：—

手話による読み聞かせをおこなう「手ではなすおはなしの会」で活動するボランティアの養成講座をオンラインで開催しました。手話による読み聞かせに必要な技術や聞こえない子どもたちへの向き合い方について学びました。



[講師]  
 池田亜希子（明晴プレススクールめだか）

### （4）読み聞かせ手話動画の公開

「手話による読み聞かせボランティア養成講座」で講師が手話で読み聞かせをした様子をオンラインで公開し、講座に参加していない人も視聴できるようにしました。（一部期間限定で公開）

- ・『ばけばけばけばけ ばけたくん』文・絵：岩田明子 出版：大日本図書
- ・『かける』作：はらぺこめがね 出版：佼成出版社

### （5）スープノアカデミア

会期：2021年8月11日、9月12日、  
 10月10日、11月23日、2022年2月6日  
 会場：7f会議室ab、7fスタジオシアター  
 入場・参加者数：177名  
 入場料等：無料  
 共催等：特定非営利活動法人エイブル・  
 アート・ジャパン東北事務局、仙台市（共催）

障害のある人の学びの場をひらく「スープノアカデミア」。からだところ、くらしと社会、文化と芸術など、いろいろなテーマで講座を重ね、その成果発表としてフォーラムを開催しました。

### （6）手話による作品解説動画の公開（「ナラティブの修復」関連企画）

再掲（p.8参照）

### （7）見えない人とつくるおしゃべり鑑賞会（「ナラティブの修復」関連企画）

再掲（p.8参照）

### （8）としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示

会期：2022年2月4日—8日  
 会場：1fオープンスクエア  
 入場・参加者数：2,097名  
 入場料等：無料  
 共催等：特定非営利活動法人エイブル・  
 アート・ジャパン東北事務局、仙台市民  
 図書館（共催）

「障害のある人と芸術文化活動」に関する多様な個人・団体・活動を紹介する「きいて、みて、して、見本市。」において、仙台市図書館や映像音響ライブラリーにあるバリアフリー資料の展示を行いました。

## B 《館長発信事業》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 >  
A 《バリアフリー・デザイン》、B 《館長発信事業》、C 《地域文化連携》、D 《施設活用推進》

### (1) アートミーツケア学会2021年度総会

会期：2021年12月4日～5日  
会場：1fオープンスクエア、7fスタジオシアター、7f会議室ab  
入場・参加者数：303名  
入場料等：会員2,000円（オンライン参加1,000円）、非会員4,000円（オンライン参加2,000円）  
共催等：アートミーツケア学会（共催）

「声一途切れてもなお、渡されてきたもの」をテーマに、講演やプレゼンテーション、ワークショップなどさまざまなプログラムを行いました。

### (2) バリアフリー上映『えんとこの歌 寝たきり歌人・遠藤滋』

再掲（p.12参照）

## C 《地域文化連携》

### (1) ショートピース！仙台短篇映画祭2021

会期：2021年9月18日～20日  
会場：7fスタジオシアター  
入場・参加者数：780名  
入場料等：1プログラム券1,000円、高校生以下、豊齢・障害者手帳等で800円  
共催等：仙台短篇映画祭実行委員会（共催）

仙台で上映される機会が少ない短篇映画をはじめ、自主制作作品、若手監督や宮城にゆかりある監督の作品を上映しました。また、せんだい・宮城フィルムコミッションのロケ風景パネルを展示、在仙三校の高校生が制作した映像を紹介しました。

#### [上映プログラム]

- ・カラダカルピス R500メカニズム映画祭
- ・ジョージア [グルジア] を知っていますか
- ・柳英里紗監督短編映画！
- ・香港、アイラブユー
- ・もうひとつの『サクリファイズ』
- ・10年目の齊藤工
- ・濱口竜介初期短編作品
- ・新しい才能に出会う
- ・相田冬二の絶品イチオシ映画『わたしは元気』



#### [ゲスト]

根岸洋之、柳英里紗、壺井濯、齊藤工、濱口竜介、山川智輝、大富いずみ、名村辰、相田冬二



2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 >  
 A《バリアフリー・デザイン》、B《館長発信事業》、C《地域文化連携》、D《施設活用推進》

## (2) せんだいデザインリーグ2022卒業設計日本一決定戦

会期：2022年3月6日～13日  
 会場：1fオープンスクエア、5fギャラリー3300、6fギャラリー4200、オンライン  
 入場・参加者数：1,902名  
 入場料等：無料  
 共催等：仙台建築都市学生会議（共催）

全国の建築を学ぶ学生たちの卒業設計作品が一堂に会し日本一を決めるイベント。20回目となる今年度は、二大会ぶりに出展者の卒業模型をメディアテークのギャラリーに展示し、公開審査も行いました。

[審査員]  
 藤本壮介（審査員長）、秋吉浩気、安藤僚子、石川初、金野千恵

[入賞作]  
 日本一：佐藤夏綾（京都大学）  
 『磯に生きるを灯ス』、日本二：鎌田彩那（武庫川女子大学）  
 『なびくみち あままで届き うづもれぬ 保久良山道 保全計画』、日本三：饗庭優樹（立命館大学）  
 『水トノ共生作法 針江集落のカバタの集積による失われた水との暮らし・集落拠点の再建』



## (3) 定禅寺通イベント共催事業等

### 定禅寺リビングストリートマルシェ2021

会期：2021年7月22日～25日  
 主催：定禅寺リビングストリートプロジェクト

ストリートに開かれた場として、定禅寺通を中心に開催されているイベントの実行委員会と連携・協力する事業。

「定禅寺リビングストリートマルシェ限定 リビングさんぽスタンプラリー2021」に協力し、オリジナルグッズを提供しました。

## D 《施設活用推進》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 >  
 A 《バリアフリー・デザイン》、B 《館長発信事業》、C 《地域文化連携》、D 《施設活用推進》

### (1) はじめてのシネマテーク

会期：2021年10月17日  
 会場：7fスタジオシアター  
 入場・参加者数：44名  
 入場料等：無料  
 共催等：－

仙台市図書館が主催する「秋の子ども読書フェスティバル」関連企画として、映像音響ライブラリーの所蔵作品から選んだ、子どもを主人公にした2作品（『KUBO（クボ）／二本の弦の秘密』『子どもの情景』）を上映しました。



### (2) としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示

再掲（p.13参照）

### (3) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル2022「Kickoff LIVE」～ここからはじまる～

会期：2022年3月27日  
 会場：1fオープンスクエア  
 入場・参加者数：120名  
 入場料等：無料  
 共催等：公益社団法人定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会（共催）

2021年9月に中止となった第30回定禅寺ストリートジャズフェスティバルにおいて、せんだいメディアテークの会場に出演予定だった熊谷駿（サクソ）を迎え、地元仙台・宮城の次世代のミュージシャンも参加するスペシャルステージを開催しました。





## 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」

「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐ事業。

### A 《地域展開事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>  
A 《地域展開事業》、B 《コミュニケーション事業》

#### (1) 川俣正/仙台インプログレス

会期：通年  
会場：仙台市沿岸部、1fエレベーターホール、7fラウンジ  
入場・参加者数：23,010名  
入場料等：—  
共催等：新浜町内会（協力）、貞山運河倶楽部（協力）

[イベント]

・川俣正/仙台インプログレス 資料展  
(2022年2月17日-7月31日/  
会場：1fエレベーターホール、7fラウンジ/入場者数：22,966名※3月31日時点)

[参加イベント]

・貞山運河の渡し船と新浜フットパス 2021  
(2021年8月8日/会場：宮城野区岡田・新浜地区/参加者数：55名/主催：新浜町内会)  
・貞山運河の渡し船と新浜フットパス 2021  
(2021年10月17日/会場：宮城野区岡田・新浜地区/参加者数：43名/主催：新浜町内会)  
・貞山運河小屋めぐり  
(2021年11月20日、21日/会場：宮城野区岡田・新浜地区/参加者数：93名/主催：貞山運河倶楽部)

川俣正による仙台市沿岸部の課題に長期的に向き合うプロジェクト。沿岸部のにぎわいや魅力の発信とともに、震災について考えるきっかけとなるように、今年度は「新浜タワー」を制作しました。また、2017年から2020年にかけての「仙台インプログレス」の記録や2021年度新たに制作した「新浜タワー」の模型などを川俣正のこれまでの活動をまとめた書籍などとあわせて紹介しました。現地では、地元町内会等が主催するイベントに協力しました。



#### (2) 藤浩志/ワケあり雑がみ部

会期：通年  
会場：7fスタジオb、オンライン  
入場・参加者数：261名  
入場料等：無料  
共催等：仙台市環境局（協力）

[イベント]

・ワケあり雑がみ部  
(2021年6月11日、12日、7月9日、10日、8月13日、14日、10月8日、9日、11月12日、13日、12月10日、11日(全12回))

2017年から始まったごみの資源化プロジェクト。6月から人数を絞って部活をするとともに、オンラインでの参加も可能とし、雑がみを使って自由に作品を制作しました。また、周辺商店街での七夕や、各種団体のイベントなどに協力しました。

「おうちで雑がみ部」企画制作  
濱田直樹（株式会社KUNK）



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>  
A《地域展開事業》、B《コミュニケーション事業》

### (3) インタビューズズー

会期：2021年9月14日、10月19日、  
11月16日、12月14日、12月28日、  
2022年1月11日、1月25日、2月15日、  
2月22日、3月8日  
会場：仙台フォーラス7f even studio、  
オンライン  
入場・参加者数：2,780名（3月31日  
時点）  
入場料等：無料  
共催等：－

コロナ禍における様々な「声」を拾い、共有し合う場づくりを  
目的とした配信番組。あらゆる年齢や立場、職業の方々に、仙  
台の街中でインタビューを実施。現在の暮らしや気持ちの変化  
について聞き、多様な分野で活動するゲストパーソナリティー  
の応答によって意見や考えが交差する場をつくりだしました。

[制作]  
TURNAROUND  
[企画運営]  
一般社団法人NOOK

## B 《コミュニケーション事業》

### (1) TALK（トーク）

協働者の企画によるアーティストや専門家によるトークイベント。コロナ禍の今年度は、集客、オン  
ライン配信などで実施しました。

協働者：ほんだあい（喫茶frame）、千田優太（一般社団法人アーツグラウンド東北）、合同会社小川  
錦織一級建築士事務所、伊藤優果（きどころね企画）、工藤夏海（喫茶ホルン）、喫茶frame、大河原  
準介（演劇企画集団LondonPANDA）、Hangout Lab Sendai、前野久美子（book cafe 火星の庭）

※「入場・参加者数」は3月31日時点での参加者および総視聴数。

#### a) 50年前の旅日記を読む

会期：2021年9月25日、10月2日  
会場：喫茶frame、オンライン  
入場・参加者数：112名  
入場料等：無料  
企画運営：ほんだあい（喫茶frame）

ゲストの高橋親夫が世界を旅して執  
筆した紀行文「未明行路」をもとに、  
旅の魅力や記録することについて話  
しました。

[ゲスト等]  
小岩勉（写真家）、高橋親夫（写真家）



#### b) アーティストの自立と社会参加 ～ ”ふくし”から考える～

会期：2021年11月10日  
会場：オンライン  
入場・参加者数：93名  
入場料等：無料  
企画運営：千田優太（一般社団法人ア  
ーツグラウンド東北）

福祉事業での取り組みを事例に、ア  
ーティストの自立と社会参加について、  
文化芸術と福祉の領域の両方で活動  
する実践者らが話し合いました。

[ゲスト等]  
田中真弓（認定NPO法人STスポット  
横浜／NPO法人アートNPOリンク）、  
五十嵐太郎（東北大学大学院工学研究科  
教授）、柴崎由美子（NPO法人エイブル・  
アート・ジャパン東京／東北事務局）



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>  
A《地域展開事業》、B《コミュニケーション事業》

c) 「山小屋から見えてくる自然・建築・人間」

会期：2021年11月13日  
会場：合同会社小川錦織一級建築士事務所、オンライン  
入場・参加者数：141名  
入場料等：無料  
企画運営：合同会社小川錦織一級建築士事務所

小屋を中心とした調査・研究と設計活動を行なっている奥矢恵を迎え、各所に存在する山小屋を紹介しながら、その変遷や建築様式についてお話しいただき、そこからみえてくる自然と人との関わりと課題について共有しました。



[ゲスト等]

奥矢恵（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授・一級建築士）、内山隆弘（青葉山・八木山フットパスの会）、小川泰輝（合同会社小川錦織一級建築士事務所）、錦織真也（合同会社小川錦織一級建築士事務所）

d) 書き手と読み手をつなぐ、紙のちから

会期：2021年11月20日  
会場：となりのえんがわ、オンライン  
入場・参加者数：220名  
入場料等：1,000円  
企画運営：伊藤優果（きどころね企画）

世界15カ国の紙工房と印刷所を訪ねる旅をした、kami/（かみひとえ）の浪江由唯をゲストに迎え、「伝える」「場を作る」「残していく」という3つのテーマをもとに、紙を巡る旅や自身の活動、国内外で作られるさまざまな「紙」が持つ魅力についてお話しいただきました。



[ゲスト等]

浪江由唯（kami/ かみひとえ）、奥口文結（ファシリテーター）

e) 私とあなたの間をとりもつもの話 ～メディアム（媒介）としての木版画と人形劇～

会期：2022年1月25日  
会場：喫茶ホルン、オンライン  
入場・参加者数：60名  
入場料等：無料  
企画運営：工藤夏海（喫茶ホルン）

木版画と人形劇を通して、社会と関わり合いながら表現活動をされている3組の方々にご登壇いただき、作ることと社会の関係や可能性について話し合いました。



[ゲスト等]

中村友紀（A3BC）、大河原多津子、大河原伸（劇団赤いトマト）、清水チナツ、長崎由幹（PUMPQUAKES）

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>  
A《地域展開事業》、B《コミュニケーション事業》

#### f) 過去を視る 過去を想う

会期：2022年1月29日  
会場：SARP 仙台アーティストランプ  
レイス スペースB、オンライン  
入場・参加者数：91名  
入場料等：無料  
企画運営：ほんだあい（喫茶frame）

仙台で活動を続ける美術家のみはらかつおと写真家の伊東卓、それぞれの取り組みを振り返りながら、震災後に受けた影響や制作の変化、思想などを語り合いました。

[ゲスト等]

みはらかつお（美術家）、伊東卓（写真家）、高倉悠樹



#### g) タフに在りつづける”たまり場”とは？

会期：2022年2月11日  
会場：仙台フォーラス7f even studio  
入場・参加者数：28名  
入場料等：無料  
企画運営：Hangout Lab Sendai

「たまり場」をテーマとして、新宿を拠点に活動するラッパーの漢 a.k.a. GAMIをゲストに迎え、人々が集う場所をどのようにつくり、継続していくべきなのか、自身の経験にもとづいてお話いただきました。

[ゲスト等]

漢 a.k.a. GAMI（ラッパー）、二木信（音楽ライター）



#### h) エンゲキは人をどう育むか

会期：2022年2月20日  
会場：仙台フォーラス7f even studio、オンライン  
入場・参加者数：未配信  
入場料等：無料  
企画運営：大河原準介（演劇企画集団 London PANDA）

第1部で「演劇の手法を使ったレクチャー」、コミュニケーション教育、演劇教育について、第2部では「演劇のレクチャー」、高校演劇をはじめとする演劇を通じた教育プログラムについて話しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>  
A《地域展開事業》、B《コミュニケーション事業》

### i) 中動態の映像学が始まるまで

会期：2022年3月13日

会場：book cafe 火星の庭、オンライン

入場・参加者数：15名（未配信）

入場料等：無料

企画運営：前野久美子（book cafe 火星の庭）

2022年1月に刊行された『中動態の映像学』をもとに、登壇者の実践を振り返りながら、思考の方法としての中動態の映像学の始まりを辿り、さらに今後どのように展開しうるか語り合いました。



[ゲスト等]

青山太郎（映像学者、デザイナー）、鈴尾啓太（映像編集者）、北野央（公益財団法人仙台市市民文化事業団）

## (2) JOURNAL（ジャーナル）

アートノード・プロジェクトについて広く伝えるとともに、地域の資源や課題と現代アートの関係を可視化・記録していく印刷物。コロナ禍における東北各地の現代アート展覧会のレビューにより内容を構成しました。

デザイン：ホームシックデザイン

・第9号（2022年3月発行）

## 2-4. その他事業（芸術文化振興事業ほか）

仙台市市民文化事業団芸術文化振興事業や各種機関との共催。

2. 企画事業 > 2-4. その他事業

### (1) SMMA仙台・宮城ミュージアムアライアンス

仙台にある17のミュージアム施設の共同事業体の事務局を担当、仙台市政だより連載「しりとりでつなぐミュージアム」、ラジオ番組「ミュージアムトークテラス・ラジオ」、また、印刷物『ちまたのけんきゅうミュージアム テーマ：あな』『旬の見験楽学便』などを企画したほか、当館を会場にして『ミュージアム・ユニバース』（2021年12月18日～26日／入場者数：3,416名）、『こどもたちとひらく未来のミュージアム』（2022年1月22日／参加者数：141名／オンライン配信）を開催しました。



### (2) 活版印刷工房

会期：2021年6月20日、7月18日、8月22日、10月17日、11月21日、12月12日、12月19日、2022年1月16日

会場：地下1f準備室

入場・参加者数：44名

入場料等：無料

共催等：活版印刷研究会（共催）

活版印刷研究会と協働し、当館で所蔵する活版印刷の活字や道具、手フット印刷機を使った作品の制作や部品清掃等を実施しました。



### (3) せんだいメディアテーク開館20周年記念事業

#### せんだいメディアテーク クロノロジー 2001-2021

会期：2021年4月1日～2022年3月31日（昨年度から延長）

会場：7fラウンジ

入場・参加者数：39,800名

入場料等：無料

共催等：—

メディアテークの建設期から現在までのさまざまな出来事や取り組みを、写真、映像、資料等でたどるクロノロジー（年表）として展示しました。



#### (4) コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー

「コミュニティ・アーカイブ」の普及啓発と事例研究を目的として立ち上げ、その参考資料の紹介や「草アーカイブ会議」（2016年度、2017年度）の記録を公開しました。

#### (5) みんなの家シンポジウム—みんなの家ってなんだろう—

会期：2022年1月23日  
 会場：1f オープンスクエア、オンライン  
 入場・参加者数：530名  
 入場料等：無料  
 共催等：NPO法人HOME-FOR-ALL、  
 熊本県、くまもとアートポリス建築展  
 2021実行委員会（共催）

東日本大震災から10年、熊本地震からは5年が過ぎた今、「みんなの家」とは一体何だったのか、今後どのような可能性を秘めているのかを、熊本と東北をオンラインで結んで話し合うシンポジウムを開催しました。伊東豊雄をはじめとする建築家20名が登壇し、熊本・仙台・サテライト会場をオンラインで中継しました。



#### (6) くまもとアートポリス巡回展～みんなの家、後世へつなぐ復興～

会期：2022年1月24日—26日  
 会場：1f オープンスクエア  
 入場・参加者数：1,617名  
 入場料等：無料  
 共催等：熊本県、くまもとアートポリス  
 建築展2021実行委員会（共催）

東日本大震災の支援として仙台市宮城野区の仮設住宅に設置された「みんなの家」など、くまもとアートポリスが取り組んできた「みんなの家」の活動を振り返りながら、これからの「みんなの家」が担う役割を考えるとともに、復興する熊本の姿を全国に発信する展覧会を東京、熊本、仙台の全国3か所で開催しました。



#### (7) 展示 smtでかんがえる子どもとおとなの「居場所」プロジェクト報告

会期：2022年3月20日—4月22日  
 会場：7f ラウンジ  
 入場・参加者数：1,642名（3月31日時点）  
 入場料等：無料  
 共催等：子どもとおとなの「居場所」をかんがえる会（協力）

館内での親子の過ごし方を調査し、居場所づくりに求められる環境等のヒアリング結果や提案等成果を展示しました。



### 3. 受託事業

仙台市より受託した事業。

#### 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

2011年度から継続して、市民、専門家らとの協働により、東日本大震災に関する写真・映像・音声を、記録・発信・利活用する事業。略称「わすれん！」。

3. 受託事業 > 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

##### (1) 星空と路 -3がつ11にちをわすれないために-

会期：2022年3月9日-4月24日  
 会場：1fオープンスクエア、7fスタジオシアター、7fスタジオa  
 入場・参加者数：3,148名（3月31日時点）  
 入場料等：無料  
 共催等：-

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」参加者の活動を紹介する展示、上映とトークを実施。参加者の活動から東日本大震災をふりかえりました。



[イベント]

- ・上映  
 鼎談映像：ダイブわすれん！に参加して（2022年3月12日／7fスタジオシアター／参加者：15名）
- ・上映とトーク（参考上映）  
 ある春のための上映会—佐藤そのみ監督作品—（2022年3月12日／7fスタジオシアター／参加者：95名）
- ・上映  
 「ダイブわすれん！」セレクション（2022年3月12日／7fスタジオシアター／参加者：33名）
- ・上映  
 3月11日を荒浜で過ごす HOPE FOR projectの10年（2022年3月13日／7fスタジオシアター／参加者：21名）

##### (2) 資料利活用プロジェクト「ダイブわすれん！」

期間：2021年9月-2022年2月

わすれん！の多種多様な記録資料の利活用方法を3名の有識者とともに考える取り組みを行いました。これまで蓄積された映像・写真・音声・テキスト等の資料群を閲覧し、当アーカイブの特性や利活用の可能性について考察、鼎談を「星空と路」で上映・展示しました。



[協力者]

角尾宣信（和光大学表現学部総合文化学科 専任講師／映画研究・表象文化論）、明貫紘子（メディアアート研究者／映像ワークショップ合同会社代表）、中村大地（作家・演出家／屋根裏ハイツ主宰）



### （3）リアルふっこうボイス

会期：2022年3月13日  
 会場：1fオープンスクエア、オンライン  
 入場・参加者数：12名  
 入場料等：無料  
 共催等：—

東日本大震災の被害にあわれた住民や支援者等、復興まちづくりに携わるさまざまな方の想いを生の声で記録・発信すると同時に、復興まちづくりに携わるメンバーが、それらの声や被災地の復興の現状を話し合う音声番組。第44回となった今回は副題を『復興は「こえ」とどう向き合うか』として配信しました。（「星空と路」にて実施）



[ゲスト等]  
 佐藤知久（京都市立芸術大学 芸術資源研究センター教授／文化人類学者）

3. 受託事業 > 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

### （4）外部機関への協力出展等

a) 展覧会「FUTURE FOR MEMORY: Art and Life After the Great East Japan Earthquake / 記憶のための未来—東日本大震災後のアートと暮らし」への資料提供、およびオンライン対談への参加

会期：2021年2月11日—9月5日  
 主催・会場：ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館（カナダ バンクーバー）  
 同展覧会にてわすれん！の記録資料の展示を行い、関連企画としてキュレーター中村冬日と当館アーティスティック・ディレクター甲斐賢治のオンライン対談も行いました。

b) 「第24回文化庁メディア芸術祭 仙台・石巻展」への出展

会期：2021年11月20日—30日  
 会場：5fギャラリー 3300  
 主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会  
 文化庁メディア芸術祭会場内の「未来への問い 記録と記憶」コーナーにて、わすれん！の移動式資料室「アーカイブヴィークル」を展示しました。

c) 「仙台防災未来フォーラム2022」ブース出展

会期：2022年3月5日  
 会場：仙台国際センター展示棟  
 主催：仙台市  
 参加型プロジェクト「はじまりのごはん」をパネル展示し、「資料カタログ」を配布しました。

## 4. 情報サービス事業

各種ライブラリーでの資料提供や情報メディア活用の支援。

4. 情報サービス事業 > 4-1. 映像音響ライブラリー、4-2. 教材ライブラリー、  
4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）、4-4. 地域映像ライブラリー

---

### 4-1. 映像音響ライブラリー

資料点数 15,148点  
貸出点数 48,037点  
新規登録者数 526名

### 4-2. 教材ライブラリー

資料点数 4,945点  
貸出点数 171点  
機材貸出点数 120点

### 4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）

資料点数 5,460点  
貸出点数 3,269件  
対面朗読件数 179件  
音訳・点訳件数 12件  
音声読み上げパソコン利用件数 0件  
音訳制作件数 13タイトル

（DAISY資料7タイトル、メディアテーク資料〔情報誌等〕6タイトル）

点訳制作件数 26タイトル

（視覚障害者情報ネットワーク「サピエ」登録19タイトル、メディアテーク資料〔情報誌等〕7タイトル）

### 4-4. 地域映像ライブラリー

資料点数 16点

---

## 4-5. デジタルアーカイブ事業

### 《アーカイブ作成活動事業》

---

#### smtコレクションの制作・公開

主催事業の記録映像、スタジオを拠点とした市民グループ等との協働による映像、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動を通じて制作された東日本大震災にまつわる映像などをDVD・CDパッケージにし（今年度54タイトル／累計487タイトル開架 5-2参照）、映像音響ライブラリーおよび教材ライブラリーで公開したほか、ライブラリー利用登録者にとどまらず、内外の報道、研究、上映会等のために貸し出しました。また、Youtubeチャンネル「せんだいメディアテーク・オンライン」で、これらの映像の一部を配信しました。

## 4-6. 活動支援事業

### (1) 学校連携事業

「杜のひろば・広瀬」の子どもたちが来館し、映像制作プログラム「コマ撮りアニメーションを作ろう！」の授業および館内見学を実施しました（10月12日／参加者数20名）。

### (2) メディアスタディーズ

プロジェクトに取り組む個人・団体との協働により、7fスタジオを拠点とし、地域の歴史や文化をデジタル・アーカイブとして残していく活動や、そのための企画・編集作業など、メディアを使った創作と実践に取り組みました。

#### 《プロジェクトと協働者》

- ・活版印刷工房（活版印刷研究会）
- ・てつがくカフェ（てつがくカフェ@せんだい）
- ・ユースてつがくカフェ てつこの部屋（てつがくカフェ@せんだい）
- ・どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ—（NPO法人20世紀アーカイブ仙台）
- ・民話 声の図書室（みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム）
- ・おほはしア라운드（地域探検隊 -TTT-）
- ・プロジェクトン・せんだい（プロジェクトン・せんだい）
- ・知る 続く 在来作物プロジェクト（みやぎ在来作物研究会）
- ・仙台前衛藝術の足跡を辿る（仙台ダダ外部調査委員会）
- ・みやぎシネマクラドル（みやぎシネマクラドル）
- ・いきもの記録係（いきもの記録係）
- ・失われた村の風景を記憶しなおす（「失われた風景を記憶しなおす」プロジェクト）
- ・カミングアウト／クローゼット（レインボーアーカイブ東北）
- ・Sendai.log（Sendai.log）
- ・細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ（寺崎英子写真集刊行委員会）
- ・まち・ひとスケープ（まち・ひとスケープ）
- ・映画『あいたくて、ききたくて、旅にでる（仮）』製作プロジェクト（映画『あいたくて、ききたくて、旅にでる（仮）』製作プロジェクト）
- ・スローウォーク・センダイ（スローウォーク・センダイ）

## 5. 配布・刊行物等

当館で制作し、配布・刊行した通信、冊子や映像音響資料等。

5. 配布・刊行物等 > 5-1. 書籍や報告書等の印刷物、5-2. DVDメディア等の映像音響資料、  
5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等、5-4. その他常備している印刷物

---

### 5-1. 書籍や報告書等の印刷物

『ナラティブの修復』（書籍）

『アートノード・ジャーナル』（第9号）

### 5-2. DVDメディア等の映像音響資料

smtコレクションDVD・CD 54タイトル（シリーズ累計487タイトル）

[内訳]

- ・協働による制作物（12タイトル）
- ・3がつ11にちをわすれないためにセンター資料（13タイトル）
- ・せんだい・アート・ノード・プロジェクト（29タイトル）

### 5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等

『催し案内』（印刷物／毎月／PDF版をウェブサイトで公開）

『けやき通り通信』（印刷物／隔月）

『教材ライブラリーだより』（印刷物／毎月／PDF版をウェブサイトで公開）

『せんだいメディアテーク・メールニュース』（メール配信／毎月／登録者2,391名）

『せんだいメディアテーク・オンライン』（映像／毎月／ウェブサイトで公開）

ウェブサイト（アクセス総数366,756件）

### 5-4. その他常備している印刷物

総合案内（日本語版／英語版／フランス語版／中国語版／韓国語版）

総合案内（目や耳の不自由なかたへ）

総合案内（車椅子アクセス）

貸出施設利用案内

## 6. その他（新型コロナウイルス感染症の影響等）

6. その他（新型コロナウイルス感染症の影響等）> 6-1. 臨時休館、6-2. 中止または次年度に延期となった事業等

---

### 6-1. 臨時休館

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、55日間臨時休館しました。  
2021年4月1日—2021年5月11日（2021年3月26日から臨時休館）  
2021年8月30日—2021年9月12日
- ・2022年3月16日夜間に発生した福島県沖地震による館内復旧のため、3月17日の1日間臨時休館しました。

### 6-2. 中止または次年度に延期となった事業等

下記事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

#### 2-2. 発信・活用推進事業

- ・鷲田清一とともに考える パート2 ドートクのじかん
- ・仙台・青葉まつり
- ・とっておきの音楽祭
- ・定禅寺ストリートジャズフェスティバル

#### 3-1. 震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

- ・録音小屋